

# 長野県高等学校入学者選抜制度等検討委員会

## 第1回 資料

	ページ
1 「学びの改革 基本構想」に関して	
(1) 「学びの改革 基本構想」について(抜粋)	1
2 現行の入学者選抜制度に関して	
(1) 平成29年度長野県公立高等学校入学者選抜制度の状況	2
(2) 平成29年度長野県公立高等学校入学者選抜における学校別実施概要	3
(3) 平成29年度長野県公立高等学校入学者選抜の結果について	8
3 現行の通学区制に関して	
(1) 長野県立高等学校の通学区域に関する規則	9
・第2条ただし書きに規定する教育長が定める学科	10
・平成29年度入学者選抜要綱(抜粋)	11
・所属・隣接通学区以外の高等学校志願承認願(様式第1号)	12
(2) 平成29年度入学生 通学区別流出入(全日制)	13
4 現行の入学者選抜制度と通学区制における課題について	
(1) 現行の入学者選抜制度と通学区制に至る経緯	14
(2) 前期選抜を含む入学者選抜制度の見直しに係る検討と関係する通知等	15
・ワーキンググループ報告概要	16
・平成16年度、17年度、18年度前期選抜入学者 追跡調査結果について	17
・県立高等学校入学者選抜制度について	18
・平成23年度県立高等学校入学者前期選抜の実施校について	19
・公立高等学校入学者選抜に関するアンケート(平成23~25年度)の集計結果について	20
・今後の高等学校入学者選抜におけるインフルエンザ罹患患者等に対する追検査等の実施について(通知)	21

# 「学びの改革 基本構想」について（抜粋）

## 1 「学びの改革」の基本理念

### (1) 「学びの改革」の必要性

（「学びの改革 基本構想」冊子 p.1）

[前略]

知識や技能を身につけて、社会に適合していくことが重視されてきたこれまでの時代とは異なり、社会の変化が大きいこれからの時代には、正解が見つげにくい中において皆で協働して納得解を得ていくような力や、自らが主体的に社会に参画して未来を創り出そうとする力等、「新たな社会を創造する力」が重要になってくる。

このような力を育むためには、知恵を絞って考え、自分の意見を表明したり、社会に問うたりする能力を身に付けていくことが必要となる。その過程において、困った時に周囲の人や組織外の人に助けを求め、協働していく姿勢も必要となる。その中で、深い知識や確かな技能を習得することの意義を見出し、それが自らを学びに向かわせる動機付けとなり、原動力になる。そして、さらなる問いと向き合い、より学びを深めていこうとする循環が形成されていく。この学びの循環の過程で、生徒は「新たな社会を創造する力」を身に付けていくことができる。

[後略]

## 2 「学びの改革」の内容

### (1) 「新たな社会を創造する力」を育む「新たな教育の推進」

#### ⑬ 入学者選抜制度の改革について

（「学びの改革 基本構想」冊子 p.13）

社会情勢の変化を踏まえて、将来を生きる高校生に求められる資質・能力が大きく変化している中、県立高等学校入学者選抜においても、その時代に応じて適切かつ最善な入学者選抜制度になっているかを常々点検し続ける必要がある。長野県では平成16年度から、それまでの12通学区制を4通学区制とし、学力検査以外の多様な個性によって学校選択ができ、各校や各学科の特色に応じた入学者選抜として前期選抜を導入した。その後、平成18年度からはすべての県立高校で前期選抜を実施していたが、平成23年度から前期選抜の実施の有無については各校の判断に委ねられることとなった。平成29年度においては、前期選抜を実施した学校が67校123学科、後期選抜のみ実施した学校が14校17学科である。

現在の前期選抜では、学力検査によらず多様な個性が評価でき、目的意識を持った意欲的な生徒が入学しているという肯定的な意見がある一方、学力検査が課されないことが中学生期の最後の学力伸長や基礎学力の定着を妨げているとの意見もある。

4通学区制への移行とともに前期選抜が始まって12年を経た今、時代の変化に対応した資質・能力が求められている中で、再び後期選抜を含めた入学者選抜制度を見直す必要があると考える。今後は、有識者等の意見も聞きながら※「学力の三要素」を適切に評価する入学者選抜制度の在り方について検討を行っていく。中学校段階で身に付けた「新たな社会を創造する力」が正しく評価され、ひいては高校においても連続的に身に付けていくための一過程としての入学者選抜になることが望まれる。結果として、小・中学校においても高校においても「新たな社会を創造する力」の育成という同一の目的に沿った授業改善のさらなる進行を期待したい。

※ 学校教育法第30条第2項では「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「主体的に学習に取り組む態度」として示されているが、平成28年8月に公表された中央教育審議会の「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ」では「生きて働く『知識・技能』の習得」「未知の状況にも対応できる『思考力・判断力・表現力等』の育成」「学びを人生や社会に活かそうとする『学びに向かう力・人間性等』の涵養」と再定義されている。

# 平成 29 年度長野県公立高等学校入学者選抜の状況

2月上旬に一部の学校を除き前期選抜を実施。合格者は入学確約書を提出することで入学予定者となる。  
3月上旬に全ての学校で後期選抜を実施。3月下旬に募集定員に満たない学校で再募集を実施。

## 1 前期選抜 各学校があらかじめ具体的な「募集の観点」を示す。 【P. 7】

### (1) 実施時期

- ア 志 願 受 付 期 間 平成 29 年 2 月 1 日(水)から 2 月 3 日(金)正午まで
- イ 面 接 等 の 検 査 期 日 平成 29 年 2 月 8 日(水)(一部の学校は 9 日(木)も)
- ウ 合 格 者 の 発 表 期 日 平成 29 年 2 月 15 日(水)
- エ 入 学 確 約 書 の 提 出 期 間 平成 29 年 2 月 21 日(火)正午まで

(2) 募集人員 募集定員の 50%以内(特色学科は 90%以内)とし各学校が定める。 【P. 3~7】

(3) 検査内容 各学校で定める面接、作文又は小論文及び実技検査 【P. 3~7】

(4) 実施校数・学科数(※市立長野を含む) 【P. 3~7】

全日制 63 校 128 学科、多部制・単位制を除く定時制 8 校 9 学科、多部制単位制 3 校 6 学科

(5) 入学者の選抜方法 最終在籍校の調査書と各学校で定めた検査の結果より総合的に判断する。

(6) 志願者数・合格者数等 募集人員 4,706 人、志願者数 7,090 人、合格者数 4,552 人

## 2 後期選抜

### (1) 実施時期

- ア 志 願 受 付 期 間 平成 29 年 2 月 22 日(水)から 2 月 24 日(金)正午まで
- イ 志 願 変 更 受 付 期 間 平成 29 年 2 月 27 日(月)から 3 月 2 日(木)正午まで
- ウ 学 力 検 査 等 の 検 査 期 日 平成 29 年 3 月 8 日(水)(一部の学校は 9 日(木)も)
- エ 入 学 予 定 者 の 発 表 期 日 平成 29 年 3 月 17 日(金)

(2) 募集人員 募集定員から前期選抜の募集人員を除いた数とする。ただし、前期選抜の入学確約書の提出者数が前期選抜の募集人員に満たなかった場合は、募集定員から前期選抜の入学確約書の提出者数を除いた数とする。

(3) 検査内容 5 教科の学力検査と各学校で定める面接、作文又は小論文及び実技検査 【P. 3~7】

(4) 実施校数・学科数 全 82 校 177 学科(中条校、犀峡校、市立長野を 1 校としてカウント)

(5) 入学者の選抜方法 最終在籍校の調査書と学力検査及び各学校で定めた検査の結果より総合的に判断する。

(6) 志願者数・合格者数等 募集人員 12,219 人、志願者数 12,051 人、合格者数 11,213 人

## 3 再募集

### (1) 実施時期

- ア 志 願 受 付 期 間 平成 29 年 3 月 17 日(金)から 3 月 22 日(水)午後 5 時まで
- イ 入 学 予 定 者 の 発 表 期 日 平成 29 年 3 月 24 日(金)まで

### (2) 募集人員・志願資格

- ア 募集人員 募集定員から入学予定者数を除いた数とする。
- イ 志願資格 後期選抜の学力検査を受けた者のうち入学予定者に内定しなかったものとする。ただし、病気、負傷等特別な事情により学力検査を受けることができなかった者から入学願書の提出があった場合には、高等学校長は、長野県教育委員会と協議の上、志願を認めることができる。

(3) 検査内容 各学校で定める面接、作文又は小論文及び実技検査 【P. 3~7】

(4) 実施校数・学科数

全日制 40 校 55 学科、多部制・単位制を除く定時制 15 校 17 学科、多部制・単位制 2 校 4 学科

(5) 入学者の選抜方法 後期選抜に準じて行う。

(6) 志願者数・合格者数等

募集人員 全日制 658 人 定時制、多部制・単位制 若干名、志願者数 220 人、合格者数 199 人

# 平成29年度長野県公立高等学校入学者選抜における学校別実施概要（1／5）

- (表の見方) 1 「募集」欄は平成29年度募集学級数です。  
 2 実施するものに○印がついています。  
 3 「作文(小論文)」欄の◎印は「小論文B」です。  
 4 第2志望欄の○印がついている学科間においては相互に第2志望を認めます。(学校により第3志望まで認める場合があります)  
 5 再募集欄は後期選抜において募集定員に満たなかった場合の実施予定内容です。  
 6 } はくくり募集をする学科です。

## 1 全日制課程

学区	番号	高校名	学 科	募集定員(学級数)	前期選抜（自己推薦型選抜）					後期選抜（一般選抜）					再募集（第2次募集）								
					募集枠%	志願理由書(PR文)	面接	作文(小論文)	実技検査	志願理由書(PR文)	面接	作文(小論文)	実技検査	傾斜配点	第2志望	志願理由書(PR文)	面接	作文(小論文)	実技検査	傾斜配点	第2志望		
1	3	飯 山	普 通	3	25	○	○								○		○					○	
			自然科学探究	2	60	○	○	◎								○		○					○
			人文科学探究																				
			スポーツ科学	1	90	○	○		○	○	○		○					○		○			
	4	下高井農林	農業	2	50	○	○				○						○						
	グリーンデザイン アグリサービス																						
	5	中野立志館	総 合	6	50	○	○	○			○						○						
	7	中 野 西	普 通	6	30	○	○										○						
	9	須 坂 東	普 通	6	30	○	○										○						
	10	須 坂	普 通	6	—																		
	11	須坂創成	園芸農学	3	50	○	○																
			農業 食品科学																				
			環境造園																				
			工業 創造工学	1	50	○	○					○						○		○			
	商業 商業	3	50	○	○					○						○		○					
	12	北 部	普 通	3	50	○	○				○						○	○					
	13	長野吉田	普 通	7	—																		
	14	長 野	普 通	7	—																		
	15	長野西	普 通	5	—										○							○	
			国際教養	1	90	○	○	◎								○						○	
	16	長野商業	商業	6	50	○	○																
	商業 会計																						
	17	長野東	普 通	6	30	○	○	○									○						
	18	長野工業	機 械	1	50	○	○									○		○					○
			電 気	1	50	○	○									○		○					○
			工業化学	1	50	○	○									○		○					○
			情報技術	1	50	○	○									○		○					○
土 木			1	50	○	○									○		○					○	
建 築			1	50	○	○									○		○					○	
環境システム			1	50	○	○									○		○					○	
91	長野西中条校	普 通	1	50	○	○				○						○	○						
92	篠ノ井犀峽校	普 通	1	50	○	○			○	○						○	○						
93	市立長野	総 合	4	50	○	○	○									○							
21	長野南	普 通	5	30	○	○	○									○							
22	篠ノ井	普 通	6	—												○							
23	更級農業	生産流通	4	50	○	○																	
		生物科学																					
		グリーンライフ																					
		施設園芸																					
24	松 代	普 通	2	40	○	○									○		○						
		商業 商業	3	50	○	○									○		○						
25	屋 代	普 通	6	—											○								
		理 数	1	70	○	○									○								
26	屋 代 南	普 通	2	30	○	○									○		○				○		
		家庭 ライフデザイン	1	50	○	○									○		○				○		
27	坂 城	普 通	4	30	○	○									○		○						

# 平成29年度長野県公立高等学校入学者選抜における学校別実施概要 (2/5)

- (表の見方)
- 1 「募集」欄は平成29年度募集学級数です。
  - 2 実施するものに○印がついています。
  - 3 「作文(小論文)」欄の◎印は「小論文B」です。
  - 4 第2志望欄の○印がついている学科間においては相互に第2志望を認めます。(学校により第3志望まで認める場合があります)
  - 5 再募集欄は後期選抜において募集定員に満たなかった場合の実施予定内容です。
  - 6 } はくくり募集をする学科です。

学区	番号	高校名	学 科	募集定員(学級数)	前期選抜 (自己推薦型選抜)					後期選抜 (一般選抜)					再募集 (第2次募集)										
					募集枠%	志願理由書 (PR文)	面接	作文 (小論文)	実技検査	志願理由書 (PR文)	面接	作文 (小論文)	実技検査	傾斜配点	第2志望	志願理由書 (PR文)	面接	作文 (小論文)	実技検査	傾斜配点	第2志望				
2	28	上田千曲	工業	機 械	1	50	○	○								○		○							
				電子機械	1	50	○	○									○		○						
				電 気	1	50	○	○									○		○						
			商業	建 築	1	50	○	○									○		○						
				商 業	1	50	○	○									○		○						
				家庭	生活福祉	1	50	○	○									○		○					
	食物栄養	1	50		○	○									○		○								
	29	上 田	普 通	8	—												○								
	30	上田染谷丘	普 通	7	—											○		○				○			
			国 際 教 養	1	80	○	○		○							○		○					○		
	31	上 田 東	普 通	8	—												○								
	32	丸子修学館	綜 合	6	50	○	○	○	○		○							○							
	34	蓼 科	普 通	3	50	○	○				○							○							
	35	望 月	普 通	2	50	○	○				○							○	○						
	36	小 諸 商 業	商業	商 業	3	50	○	○								○		○					○		
				会計システム	1	50	○	○									○		○					○	
	37	小 諸	普 通	普 通	5	30	○	○										○							
				音 楽	1	90	○	○		○			○						○		○				
	38	軽 井 沢	普 通	3	50	○	○				○							○							
	39	佐 久 平 総 合 技 術	農業	食料マネジメント	3	50	○	○								○		○					○		
				生物サービス																					
				食農クリエイト																					
			工業	機械システム	1	50	○	○					○				○		○						○
				電気情報	1	50	○	○					○				○		○						○
	創 造 実 践	2	50	○	○					○					○		○						○		
	40	岩 村 田	普 通	5	—													○							
	41	野 沢 北	普 通	4	—											○									
			理 数	1	90	○	○									○									
42	野 沢 南	普 通	5	—													○								
44	小 海	普 通	3	25	○	○				○							○								

# 平成29年度長野県公立高等学校入学者選抜における学校別実施概要 (3/5)

- (表の見方)
- 「募集」欄は平成29年度募集学級数です。
  - 実施するものに○印がついています。
  - 「作文(小論文)」欄の◎印は「小論文B」です。
  - 第2志望欄の○印がついている学科間においては相互に第2志望を認めます。(学校により第3志望まで認める場合があります)
  - 再募集欄は後期選抜において募集定員に満たなかった場合の実施予定内容です。
  - } はくくり募集をする学科です。

学区	番号	高校名	学 科	募集定員(学級数)	前期選抜(自己推薦型選抜)					後期選抜(一般選抜)					再募集(第2次募集)										
					募集率%	志願理由書(PR文)	面接	作文(小論文)	実技検査	志願理由書(PR文)	面接	作文(小論文)	実技検査	傾斜配点	第2志望	志願理由書(PR文)	面接	作文(小論文)	実技検査	傾斜配点	第2志望				
3	45	富士見	普通	2	40	○	○				○						○								
			農業園芸	1	50	○	○					○						○							
	46	茅野	普通	3	25	○	○				○						○								
	47	諏訪実業	商業 商業	4	50	○	○					○					○					○			
			会計情報																						
			家庭服飾	1	50	○	○					○					○					○			
	48	諏訪清陵	普通	6	—																				
	49	諏訪二葉	普通	6	—												○								
	50	下諏訪向陽	普通	5	30	○	○																		
	51	岡谷東	普通	4	30	○	○					○						○							
	52	岡谷南	普通	5	—													○							
	53	岡谷工業	工業	機械	1	50	○	○										○					○		
				電気	1	50	○	○											○					○	
				環境化学	1	50	○	○											○						○
				電子機械	1	50	○	○											○						○
				情報技術	1	50	○	○											○						○
	54	辰野	普通	3	40	○	○					○						○					○		
			商業商業	1	50	○	○						○					○					○		
	56	上伊那農業	農業	生産環境	1	50	○	○										○						○	
				園芸科学	1	50	○	○											○						○
				生物科学	1	50	○	○											○						○
				緑地創造	1	50	○	○											○						○
	57	高遠	普通	3	45	○	○					○						○							
	58	伊那北	普通	5	—													○					○		
			理数	1	90	○	○	○										数,理	○					数,理	○
	59	伊那弥生ヶ丘	普通	6	—																				
	60	赤穂	普通	4	—													○						○	
			商業商業	2	50	○	○											○						○	
	61	駒ヶ根工業	工業	機械	3	50	○	○																	
				電気																					
情報技術																									
62	松川	普通	4	40	○	○					○	○				○	○								
63	飯田	普通	6	—													○								
		理数	1	70	○	○											○								
64	飯田風越	普通	5	—													○						○		
		国際教養	1	80	○	○											国,英	○						国,英	○
66	飯田OIDE姫	工業	機械工学	1	50	○	○											○							
			電子機械工学	1	50	○	○												○						
			電気電子工学	1	50	○	○												○						
			社会基盤工学	1	50	○	○												○						
			建築学	1	50	○	○												○						
			商業商業	2	50	○	○												○						
67	下伊那農業	農業	農業機械	1	50	○	○											○						○	
			園芸クリエイト	1	50	○	○												○						○
			食品化学	1	50	○	○												○						○
			アグリサービス	1	50	○	○												○						○
68	阿智	普通	3	40	○	○					○						○								
69	阿南	普通	3	40	○	○					○						○	○							

# 平成29年度長野県公立高等学校入学者選抜における学校別実施概要（4／5）

- (表の見方)
- 1 「募集」欄は平成29年度募集学級数です。
  - 2 実施するものに○印がついています。
  - 3 「作文(小論文)」欄の◎印は「小論文B」です。
  - 4 第2志望欄の○印がついている学科間においては相互に第2志望を認めます。(学校により第3志望まで認める場合があります)
  - 5 再募集欄は後期選抜において募集定員に満たなかった場合の実施予定内容です。
  - 6 } はくくり募集をする学科です。

学区	番号	高校名	学 科	募集定員(学級数)	前期選抜（自己推薦型選抜）					後期選抜（一般選抜）					再募集（第2次募集）						
					募集率%	志願理由書(PR文)	面接	作文(小論文)	実技検査	志願理由書(PR文)	面接	作文(小論文)	実技検査	傾斜配点	第2志望	志願理由書(PR文)	面接	作文(小論文)	実技検査	傾斜配点	第2志望
4	70	蘇南	総合	2	50	○	○	○			○						○				
	72	木曾青峰	普通	1	—										○		○				○
			農業 森林環境	1	50	○	○	○							○	○	○				○
			工業 インテリア	1	50	○	○	○							○	○	○				○
			理数	1	75	○	○	○							○		○				○
	73	塩尻志学館	総合	6	50	○	○	○	○							○					
	74	田川	普通	6	25	○	○	○								○					
	75	梓川	普通	4	50	○	○	○			○					○					
	76	松本工業	工業 機械	2	50	○	○								○		○				○
			電気	1	50	○	○								○		○				○
			電子工業	2	50	○	○								○		○				○
	77	松本県ヶ丘	普通	7	—										○						
			英語	1	90	○	○	◎						英	○		○			英	
	78	松本美須ヶ丘	普通	7	—											○					
	79	松本深志	普通	8	—											○					
	80	松本蟻ヶ崎	普通	8	—																
	82	明科	普通	4	40	○	○	○		○	○					○	○				
	83	豊科	普通	6	—											○					
	84	南安曇農業	農業 グリーンサイエンス	1	50	○	○								○		○				○
			環境クリエイト	1	50	○	○								○		○				○
生物工学			1	50	○	○								○		○				○	
85	穂高商業	商業 商業	4	50	○	○										○					
		情報マネジメント																			
86	池田工業	工業 機械	3	50	○	○				○						○					
		電気・情報システム																			
		建築																			
87	大町岳陽	普通	4	30	○	○								○		○				○	
		学究	2	70	○	○								○		○				○	
89	白馬	普通	1	40	○	○				○				○		○				○	
		国際観光	1	75	○	○				○				○		○				○	

# 平成29年度長野県公立高等学校入学者選抜における学校別実施概要 (5/5)

- (表の見方)
- 1 「募集」欄は平成29年度募集学級数です。
  - 2 実施するものに○印がついています。
  - 3 「作文(小論文)」欄の◎印は「小論文B」です。
  - 4 第2志望欄の○印がついている学科間においては相互に第2志望を認めます。(学校により第3志望まで認める場合があります)
  - 5 再募集欄は後期選抜において募集定員に満たなかった場合の実施予定内容です。
  - 6 } はくくり募集をする学科です。

## 2 定時制課程

学区	番号	高校名	学 科	募集定員(学級数)	前期選抜(自己推薦型選抜)					後期選抜(一般選抜)					再募集(第2次募集)							
					募集枠%	志願理由書(PR文)	面接	作文(小論文)	実技検査	志願理由書(PR文)	面接	作文(小論文)	実技検査	傾斜配点	第2志望	志願理由書(PR文)	面接	作文(小論文)	実技検査	傾斜配点	第2志望	
1	5	中野立志館	普通	1	30	○	○	○		○	○					○	○	○				
	13	長野吉田	普通・昼	1	—					○	○	○				○	○	○				
	14	長野	普通	1	50	○	○	○		○	○					○	○	○				
	16	長野商業	普通	1	50	○	○	○		○	○						○	○				
	18	長野工業	工業	基礎工学	1	10	○	○	○		○	○			○		○	○				○
			工業	建築	1	10	○	○	○		○	○			○		○	○				○
22	篠ノ井	普通	1	—					○	○	○				○	○	○					
2	28	上田千曲	工業	機械	1	—				○	○	○				○	○	○				
	29	上田	普通	1	50	○	○	○		○	○					○	○	○				
	36	小諸商業	商業	商業	1	—				○	○					○	○	○				
	42	野沢南	普通	1	—					○	○						○	○				
3	47	諏訪実業	普通	1	25	○	○	○		○	○					○	○	○				
	60	赤穂	普通	1	—					○	○						○	○				
	66	飯田OIDE長姫	普通	1	—						○				○		○					
工業			基礎工学	1	—						○				○		○					
4	72	木曾青峰	普通	1	20	○	○				○						○	○				
	86	池田工業	普通	1	20	○	○	○			○					○	○	○				

なお、定時制課程はこの他に追加募集を行うことがあります。

## 3 定時制課程(多部制・単位制)

学区	番号	高校名	学 科	募集定員(学級数)	前期選抜(自己推薦型選抜)					後期選抜(一般選抜)					再募集(第2次募集)							
					募集枠%	志願理由書(PR文)	面接	作文(小論文)	実技検査	志願理由書(PR文)	面接	作文(小論文)	実技検査	傾斜配点	第2志望	志願理由書(PR文)	面接	作文(小論文)	実技検査	傾斜配点	第2志望	
2	33	東御清翔	普通・午前部	3	50	○	○	○			○						○					
			普通・午後部																			
3	55	箕輪進修	普通・I部	2	50	○	○	○		○	○						○	○	○			
			普通・II部																			
			普通・III部																			
			工業・I部																			
4	81	松本筑摩	普通・午前部	3	50	○	○	○		○	○					○	○	○				○
			普通・午後部																			
			普通・夜間部																			

なお、定時制課程はこの他に追加募集を行うことがあります。

## 前期選抜「募集の観点」の例

### A校(一般的な普通科)

入学後は、学校生活の中心となって活躍し、高い規範意識をもって他の生徒の模範となるよう努力する者。  
 加えて、次の①～③のすべてにあてはまる者。  
 ① 中学校の教科の学習で高い成果をあげ、自身の進路実現に向けて意欲的に勉学に取り組む意志があること。  
 ② 中学校の特別活動や部活動、または校外活動や地域の活動において積極的・継続的に活動した実績を持ち、入学後どのような活動をしたかが明確であること。  
 ③ 学習と部活動の両立をめざす高い意欲があること。

### B校(特色ある普通科)

出席状況が良好で、挨拶や清掃、身だしなみ等の基本的な生活習慣と規則を守る意識が身につけており、基礎学力が十分にある者。その上で①または②にあてはまる者。  
 ① 健康スポーツコースを希望する者  
 中学校時に運動部の部活動または社会体育の活動に継続的に取り組み、優れた能力や実績を有する者。さらに、入学後も本校の運動部で中学校時の活動を継続し、将来スポーツ・福祉・健康関係の大学等への進学を考え、卒業まで学業と部活動を両立させることができる者。  
 ② 教養フロンティアコースを希望する者  
 学習に真剣に取り組める者。さらに、大学等への進学に向けた学習や生徒会活動・ボランティア活動、部活動のいずれかに目的意識と意欲を持って取り組める者。



## 平成29年度長野県公立高等学校入学者選抜の結果について

区分	募集 定員 A	前期選抜（自己推薦）			後期選抜（一般）			合格者 (D+G) H	再(2次)募集		入学者数			比 率				
		志願者 B	受検者 C	合格者 D	志願者 E	受検者 F	合格者 G		志願者	合格者	男	女	計 I	倍 率		進 学 I/J %	充 足 I/A %	
														前期 B/D	後期 F/G			
公立 全日 制	普通科	10,320	2,296	2,290	1,399	9,139	9,112	8,522	9,921	123	112	4,968	5,065	10,033	1.64	1.07	48.3%	97.2%
	農業科	1,000	835	835	503	497	496	468	971	5	5	530	446	976	1.66	1.06	4.7%	97.6%
	工業科	1,440	1,124	1,124	722	677	677	664	1,386	22	20	1,301	105	1,406	1.56	1.02	6.8%	97.6%
	商業科	1,200	941	941	597	559	558	539	1,136	32	31	447	720	1,167	1.58	1.04	5.6%	97.3%
	家庭科	160	190	190	81	84	84	80	161	0	0	17	144	161	2.35	1.05	0.8%	100.6%
	特色学科	640	653	652	474	241	237	144	618	2	3	282	339	621	1.38	1.65	3.0%	97.0%
	総合学科	1,040	678	678	520	514	514	496	1,016	9	9	465	560	1,025	1.30	1.04	4.9%	98.6%
計	15,800	6,717	6,710	4,296	11,711	11,678	10,913	15,209	193	180	8,010	7,379	15,389	1.56	1.07	74.1%	97.4%	
県立 定時 制	普通科	880	340	338	236	288	281	250	486	12	7	289	209	498	1.44	1.12	2.4%	56.6%
	( )多部制内数	(400)	(282)	(281)	(184)	(171)	(166)	(139)	(323)	(2)	(1)	(189)	(136)	(325)	(1.53)	(1.19)	(1.6)	(81.3)
	工業科	200	33	33	20	46	46	45	65	7	4	68	2	70	1.65	1.02	0.3%	35.0%
	( )多部制内数	(40)	(33)	(33)	(20)	(18)	(18)	(18)	(38)	(1)	(0)	(37)	(1)	(38)	(1.65)	(1.0)	(0.2)	(95.0)
商業科	40	—	—	—	6	5	5	5	8	8	8	6	14	—	1.00	0.1%	35.0%	
計	1,120	373	371	256	340	332	300	556	27	19	365	217	582	1.46	1.11	2.8%	52.0%	
( )多部制内数	(440)	(315)	(314)	(204)	(189)	(184)	(157)	(361)	(3)	(1)	(226)	(137)	(363)	(1.54)	(1.17)	(1.7)	(82.5)	
公立計	16,920	7,090	7,081	4,552	12,051	12,010	11,213	15,765	220	199	8,375	7,596	15,971	1.56	1.07	77.0%	94.4%	
私立計	3,665	4,876	4,865	4,665	5,613	5,542	4,134	8,799	29	27	1,609	1,992	3,601	1.05	1.34	17.4%	98.3%	
公私立計	20,585	11,966	11,946	9,217	17,664	17,552	15,347	24,564	249	226	9,984	9,588	19,572	1.30	1.14	94.3%	95.1%	
長野高専	200	112	112	94	169	165	106	200	—	—	164	36	200	1.19	1.56	1.0%	100.0%	

備考 1 中学校卒業生数(推定) J = 20,754 (平成28年5月1日現在 県内中学校3学年在籍数。松本秀峰中等教育学校を含む。)  
 2 前期選抜(推薦)実施校 公立68校143学科、私立15校 ※長野西中条校及び篠ノ井犀峽校をそれぞれ1校としてカウントしている。  
 3 後期選抜の志願者、受検者、合格者および入学者数には県立中学校の内進生を含んでいる。  
 4 再募集(第2次募集)実施校 公立全日制40校、県立定時制15校、県立多部制2校、私立5校  
 5 県立定時制入学者数には、追加募集による入学者も含まれる。追加募集による入学者は9名(内多部制2名)  
 6 佐久長聖中から佐久長聖高、長野日本大学中から長野日本大学高、長野清泉女学院中から長野清泉女学院高、および文化学園長野中から文化学園長野高への進学者は前期選抜入学に含めてある。

<参考>

平成28年度

公立全日制	15,640	6,940	6,934	4,216	11,896	11,859	11,116	15,332	201	184	8,052	7,459	15,511	1.65	1.07	75.3%	99.2%
県立定時制	1,120	327	324	240	310	304	274	514	57	45	391	182	573	1.36	1.11	2.8%	51.2%
公立計	16,760	7,267	7,258	4,456	12,206	12,163	11,390	15,846	258	229	8,443	7,641	16,084	1.63	1.07	78.1%	96.0%
私立計	3,640	4,116	4,101	3,995	5,596	5,521	4,491	8,486	72	57	1,605	1,906	3,511	1.03	1.23	17.0%	96.5%
公私立計	20,400	11,383	11,359	8,451	17,802	17,684	15,881	24,332	330	286	10,048	9,547	19,595	1.35	1.11	95.2%	96.1%
長野高専	200	77	77	68	194	192	137	205	—	—	177	28	205	1.13	1.40	1.0%	102.5%

備考 1 中学校卒業生数(推定) J = 20,593 (平成27年5月1日現在 県内中学校3学年在籍数。松本秀峰中等教育学校を含む。)  
 2 前期選抜(推薦)実施校 公立68校143学科、私立15校 ※長野西中条校及び篠ノ井犀峽校をそれぞれ1校としてカウントしている。  
 3 後期選抜の志願者、受検者、合格者および入学者数には県立中学校の内進生を含んでいる。  
 4 再募集(第2次募集)実施校 公立全日制28校、県立定時制15校、県立多部制3校、私立6校  
 5 県立定時制入学者数には、追加募集による入学者も含まれる。追加募集による入学者は14名(内多部制3名)  
 6 佐久長聖中から佐久長聖高、長野日本大学中から長野日本大学高、および長野清泉女学院中から長野清泉女学院高への進学者は前期選抜入学に含めてある。

# 長野県立高等学校の通学区域に関する規則

昭和48年11月15日

教育委員会規則第10号

最終改正 平成28年7月14日教育委員会規則第11号

(目的)

第1条 この規則は、長野県立高等学校(以下「高等学校」という。)の通学区域(以下「通学区」という。)について定めることを目的とする。

(通学区)

第2条 高等学校の通学区は、別表のとおりとする。ただし、教育長が定める学科の通学区は、県内全域とする。

(志願)

第3条 前条に定める通学区内にある中学校若しくは義務教育学校の卒業見込みの者若しくは卒業者又は中等教育学校の前期課程の修了見込みの者若しくは修了者(次項において「中学校等の卒業見込みの者等」という。)で、高等学校に就学しようとする者は、当該通学区内の高等学校を志願しなければならない。

2 前項の規定にかかわらず、当分の間、前条本文に定める通学区内にある中学校等の卒業見込みの者等で、同条ただし書に規定する教育長が定める学科以外の学科に就学しようとするものは、当該通学区内の高等学校のほか当該通学区に隣接する他の通学区内の高等学校を志願することができる。

(適用の除外)

第4条 前条の規定は、特別の事由のある者で、長野県教育委員会が承認したものには適用しない。

(補則)

第5条 この規則に定めるもののほか、この規則の実施に関し必要な事項は、教育長が定める。

附 則

(施行期日)

この規則は、平成28年7月21日から施行する。

(別表) (第2条関係)

名 称	区 域
第1通学区	埴科郡 上高井郡 下高井郡 上水内郡 下水内郡 長野市 須坂市 中野市 飯山市 千曲市
第2通学区	南佐久郡 北佐久郡 小県郡 上田市 小諸市 佐久市 東御市
第3通学区	諏訪郡 上伊那郡 下伊那郡 岡谷市 飯田市 諏訪市 伊那市 駒ヶ根市 茅野市
第4通学区	木曽郡 東筑摩郡 北安曇郡 松本市 大町市 塩尻市 安曇野市

第2条ただし書きに規定する教育長が定める学科

飯山高等学校	スポーツ科学科
長野工業高等学校	工業化学科、環境システム科
小諸高等学校	音楽科
岡谷工業高等学校	環境化学科
白馬高等学校	国際観光科
中野立志館高等学校	総合学科
丸子修学館高等学校	総合学科
佐久平総合技術高等学校	創造実践科
蘇南高等学校	総合学科
塩尻志学館高等学校	総合学科

## 平成29年度入学者選抜要綱（抜粋）

### 4 入学志願

- (1) 志願できる高等学校の範囲は、長野県立高等学校の通学区域に関する規則（昭和48年長野県教育委員会規則第10号。以下「通学区規則」という。）の定めるところによる。
- (2) 志願は1校1課程1学科に限る。ただし、くくり募集（原則として同一学校の同一課程内の複数の小学科を1学科として取り扱って行う募集をいう。）を実施する学校の場合は、くくられた群への志願とする。
- (3) 通学区規則第4条の規定により、所属通学区及び所属通学区に隣接する通学区以外の区域に所在する高等学校を志願する者及び県外から本県の県立高等学校を志願する者は、アの期間内に、イの書類を最終在籍学校長を経て、長野県教育委員会事務局高校教育課長（以下「高校教育課長」という。）に提出して、長野県教育委員会の承認を受けること。

#### ア 受付期間

期 間	備 考
平成28年12月1日（木）から平成29年1月23日（月）午後5時まで	保護者の転勤に伴う一家転住等により左の期間に手続ができない者については、平成29年1月24日（火）から2月21日（火）午後5時まで（長野県教育委員会が特に認めた者については、3月2日（木）正午までの期間も受け付ける。 郵送する場合は、受付期間内に到着しないものは無効とする。

#### イ 提出書類

- (ア) 特別の事由により所属通学区及び所属通学区に隣接する通学区以外の区域に所在する高等学校を志願する者  
所属・隣接通学区以外の高等学校志願承認願（様式第1号） 【P.12】  
特別の事由を証明する書類
- (イ) 県外から本県の県立高等学校を志願する者  
長野県立高等学校志願承認願（様式第2号）  
特別の事由を証明する書類

所属・隣接通学区以外の高等学校志願承認願（様式第 1 号）

（様式第 1 号）（第 1 関係）

（用紙寸法 A 4）

所属・隣接通学区以外の高等学校志願承認願

長野県教育委員会 様

年 月 日

現住所

志願者

保護者



志願者との関係

下記のとおり、所属・隣接通学区以外の高等学校へ志願したいので承認してください。

記

1 志願する高等学校及び学科

（前期選抜）

第 通学区

高等学校（全・定）

科・部

（後期選抜）

第 通学区

高等学校（全・定）

科・部

2 事由（詳細に）

3 平成29年4月1日以降の住所

副 申

上記の事由について、相違ないことを証明します。

年 月 日

中学校長



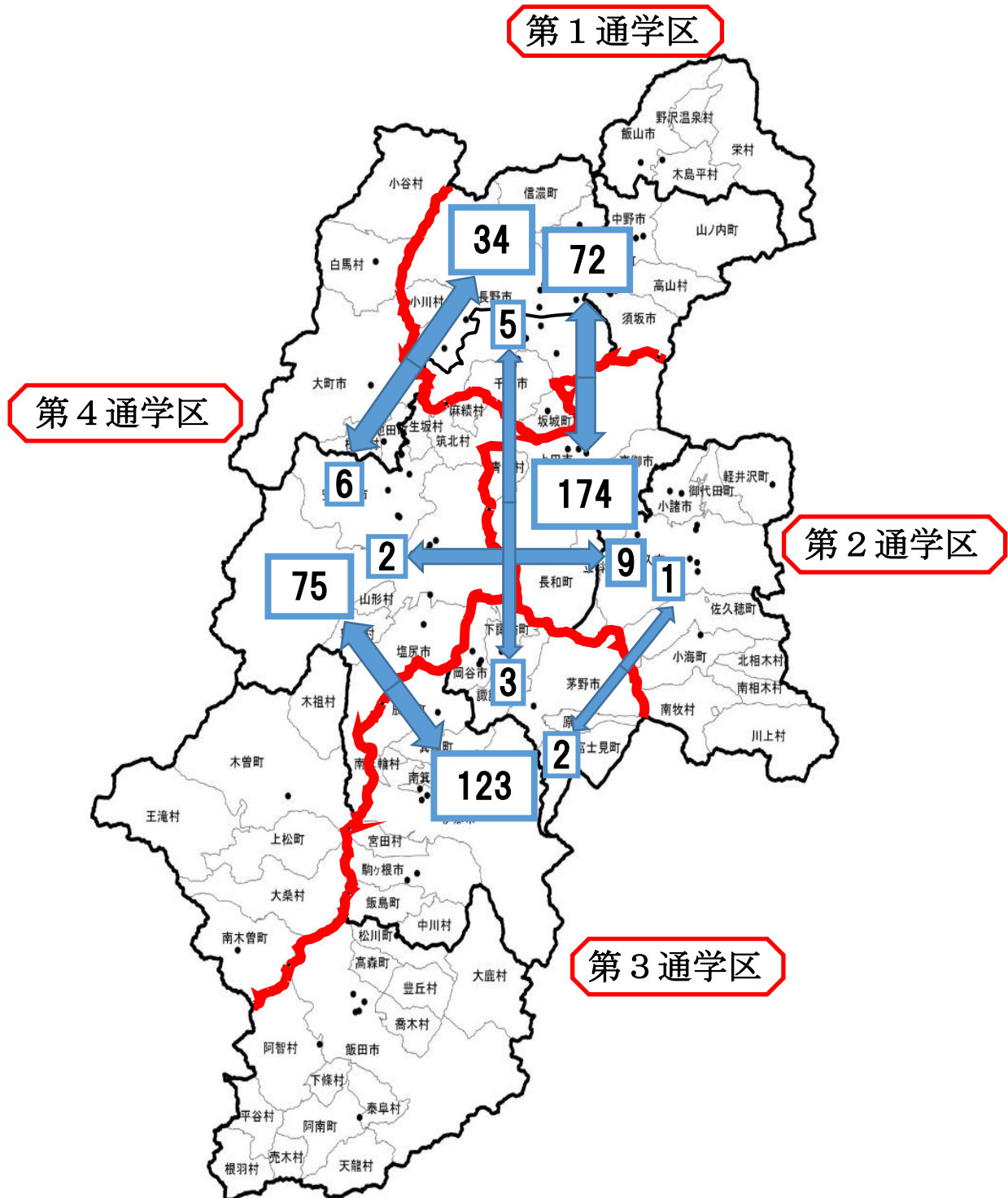
平成29年度入学生 通学区別流出入（全日制）

全日制

From 中学校の所属通学区

To  
(高校)

通学区	第1通学区	第2通学区	第3通学区	第4通学区	県外中学	合計	流入
第1通学区	4,524	72	5	34	15	4,650	126
第2通学区	174	2,898	1	9	10	3,092	194
第3通学区	3	2	4,006	123	5	4,139	133
第4通学区	6	2	75	3,215	52	3,350	135
合計	4,707	2,974	4,087	3,381	82	15,231	
流出	183	76	81	166			
流入－流出	-57	118	52	-31			



# 現行の入学者選抜制度と通学区制に至る経緯

## 1 入学者選抜制度と通学区制の変遷

昭和 49 年	<u>普通科において 12 通学区制導入</u> （専門学科は従前どおり 4 通学区制）
昭和 57 年	職業科に推薦入試導入
昭和 59 年	受験の複数機会、推薦入学の積極的実施、面接の利用（文部省通知）
平成 3 年	各校の特色に応じて、選抜方法の多様化・選抜尺度の多元化の推進（中教審答申）
平成 5 年	選抜方法の多様化・選抜尺度の多元化、業者テストの依存是正（文部省通知）
平成 7 年	<u>パーセント条項導入</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全日制普通科において隣接通学区から募集定員の 10%以内の入学を認める</li> </ul>
平成 8 年	「長野県公立高等学校入学者選抜方法検討会議」の報告 <ul style="list-style-type: none"> <li>・傾斜配点、普通科の推薦入学、面接、受検機会の複数化、特色学科の第 2 志望等</li> </ul>
平成 10 年	全日制普通科において学校の判断で推薦入試導入
平成 13 年	「長野県立高等学校通学区検討委員会」の報告 <ul style="list-style-type: none"> <li>・普通科の通学区は、地域ごとの教育条件の均衡を図るため 4 通学区制が望ましい</li> <li>・過度の受験競争を避けるためにも、多様な個性を評価できるような様々な入学者選抜の方法を工夫し、推進すること</li> </ul>
平成 15 年	隣接通学区からの入学枠を 20%以内とする（4 通学区制移行への経過措置）
平成 16 年	<u>前期選抜導入、普通科において 4 通学区制の導入</u>
平成 18 年	全日制の全校で前期選抜実施
平成 23 年	<u>前期選抜の実施を各学校の判断に委ねる</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全日制普通科 28 校が取り止め</li> </ul>

## 2 前期選抜導入前と導入後の入学者選抜制度の比較

### (1) 平成 15 年度まで

推薦入学者選抜	一般選抜
<b>【実施校】</b> 普通科の一部(募集定員の 30%程度)と全ての専門学科(同 40%程度)・特色学科(同 90%程度)・総合学科(同 50%程度) <b>【選抜の方法】</b> 推薦書、調査書、面接など	<b>【実施校】</b> 全校 <b>【選抜の方法】</b> 調査書、5 教科の学力検査（各学校で定める面接や実技検査） <ul style="list-style-type: none"> <li>・専門学科と普通科の間の第 2 志望可能（専門学科内の他科との第 2 志望も可能）</li> </ul>

### (2) 平成 16 年度から 22 年度まで

前期選抜（自己推薦型選抜）	後期選抜（一般選抜）
<b>【実施校】</b> 全ての普通科・専門学科・総合学科(募集定員の 50%以内)、特色学科(同 90%以内) <b>【選抜の方法】</b> 調査書、面接及び各学校で定める作文又は小論文、実技検査 <ul style="list-style-type: none"> <li>・各高校の募集の観点に応じて誰でも志願可能</li> </ul>	<b>【実施校】</b> 全校 <b>【選抜の方法】</b> 調査書と 5 教科の学力検査（各学校で定める面接、志願理由書、作文、小論文、実技検査） <ul style="list-style-type: none"> <li>・専門学科及び特色学科において傾斜配点可能</li> <li>・特色学科と普通科の間の第 2 志望も可能に</li> </ul>

### (3) 平成 23 年度から

前期選抜（自己推薦型選抜）	後期選抜（一般選抜）
<b>【実施校】</b> 各学校の判断に委ねる <ul style="list-style-type: none"> <li>・その他については変更点なし</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・変更点なし</li> </ul>

# 前期選抜を含む入学者選抜制度の見直しに係る検討と関係する通知等

## 1 ワーキンググループによる入学者選抜制度の検討

### (1) 平成 20 年・21 年

ア 前期選抜及び選抜制度の今後のあり方に係る検討について（平成 21 年 7 月 16 日定例会）

・ワーキンググループ報告概要（前期選抜導入の趣旨、現状、成果、課題） 【P. 16】

・平成 16 年度、17 年度、18 年度前期選抜入学者追跡調査結果 【P. 17】

イ 県立高等学校入学者選抜制度について（平成 21 年 9 月 10 日定例会）

・前期選抜改革の主な論点 【P. 18】

ウ 県立高等学校入学者選抜における前期選抜の見直しについて（平成 21 年 11 月 16 日定例会）

・各学校での検討の指針、指摘されている主な課題、留意事項 【P. 19】

エ 平成 23 年度県立高等学校入学者前期選抜の実施校について（平成 22 年 3 月 18 日定例会）

・「指摘されている課題」に留意し、各学校で前期選抜の実施の有無を検討

・前期選抜の実施を各学校の判断に委ねる（全日制普通科 28 校が取り止め） 【P. 19】

### (2) 前期選抜改革後の入学者選抜に関するアンケート調査

平成 23 年度入学者選抜から前期選抜の実施形態が改められたことをうけ、今後の前期選抜のあり方を検討するための資料とするため、平成 23 年度から 3 年間にわたり入学者及びその保護者、中学校郡市校長会長、公立高等学校長に対するアンケート調査を実施 【P. 20】

### (3) 平成 27 年・28 年

今後行われる大学入試改革及び学習指導要領の改訂に対応し、中学・高校の 6 年間で生徒につけたい確かな学力を、中間段階である高等学校入学者選抜において適正に評価できるよう改善を検討

## 2 入学者選抜制度の見直しに関係する国の動き

(1) 「幼稚園，小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」（中教審答申、平成 28 年 12 月 21 日）

・グローバル化や情報技術（IT）の進展などを踏まえ、「情報活用能力」や「課題発見能力」・「課題解決能力」などが求められる。

(2) 高大接続システム改革会議「最終報告」（平成 28 年 3 月 31 日）

・従来の知識偏重から思考力重視への転換

(3) 今後の高等学校入学者選抜におけるインフルエンザ罹患者等に対する追検査等の実施について

（文部科学省通知、平成 29 年 3 月 29 日） 【P. 21～23】



# ワーキンググループ報告概要

(平成 21 年 7 月 16 日)

## 1 前期選抜導入の趣旨

学力検査以外の多様な評価の尺度により入学者を選抜するということが、前期選抜導入の重要な趣旨である。

## 2 前期選抜の現状

前期選抜が導入されてから今年で 6 年、公立の高等学校全校が実施するようになってから 4 年が経過。前期選抜は制度としては安定してきており、一定の評価を得ている一方で、現状に対して様々な意見や疑問があり、機をとらえて見直しをするべきとの指摘もされている。

## 3 前期選抜の成果

- (1) 前期選抜の募集の観点等についての議論が、各高校のあり方について真摯に考える契機となった。また、受検生が志望校を選択する際に志望の動機を考慮することや面接等を受けることで、高校選択が自分自身のものになっている。
- (2) それまでの選抜については、学力検査の評価に重点が置かれた画一的なものであるとの批判もあり、評価尺度の多様化の要望に応えることができた。
- (3) 前期選抜の実施によって受検機会を複数与えることになった。
- (4) 自己推薦にすることによって、以前の中学校長による推薦制度よりも自由な出願ができています。
- (5) 学校の特色づくりに適った生徒の志願があり、全体の活性化につながっている高校がある。
- (6) この制度による入学者の特徴について、学校生活への意欲や目的意識が高く、部活動に積極的であると多くの高校が評価しており、追跡調査等で実績としても表れている。

【P. 17】

## 4 前期選抜の課題

- (1) 実質的に選抜が 1 ヶ月前倒しとなり、中学三年生の授業のあり方に影響を与えた。また、前期選抜後の中学三年生について、指導上の課題を指摘する声がある。
- (2) 減少傾向にあるとは言え、前期選抜において、ある程度の数の不合格者を出さざるを得ない状況がある。
- (3) 学力検査を受検しない全体の 3 割強の前期選抜入学生について、その学力実態把握の問題と、学力低下の懸念が生まれてきている。
- (4) 選抜業務が増加し、通常の教育活動に影響を与えた。
- (5) 合否の判定基準が曖昧である、あるいは合否判定への納得が得にくいとの声が未だにある。  
(募集の観点の明確化、評価方法の公表等により改善はされてきている。)
- (6) 現行の前期選抜の有効性が表れないまま消極的に追随している高校や、面接や小論文で選抜する方法に限界が生じている高校では、その打開策として独自入試を行ったり、前期選抜を行わないなどの学校ごとの判断による実施が望まれている。

## 平成 16 年度、17 年度、18 年度前期選抜入学者 追跡調査結果について

### ○ 平成 16 年度入学者追跡調査

#### ☆ 全日制全体（平成16年度前期選抜実施校）

	募集 定員	入学 者数	前期	入学者数 ( )は再募、後期外数	卒業 者数	三年 卒業率	四大 進学者数 (現役)	四大 進学率	部活 三年 継続 者数	三年 継続率	生徒会 役員	役員率
			後期									
合 計	16,800	16,574	前期	5,190	4,944	95.3%	1,476	29.9%	3,553	71.9%	1,164	23.5%
			後期	11,059 (325)	10,474	94.7%	4,140	39.5%	7,058	67.4%	1,754	16.7%

※ 公立高校 90 校のうち、平成 16 年度入学者選抜で前期選抜を実施しなかった高校（学科）「岩村田（普通）、野沢北（普通）、諏訪二葉、下諏訪向陽、岡谷南（普通）、伊那弥生ヶ丘、木曾（普通）、松本筑摩」のデータは除いてある。

### ○ 平成 17 年度入学者追跡調査

#### ☆ 全日制全体（平成17年度前期選抜実施校）

	募集 定員	入学 者数	前期	入学者数 ( )は再募、後期外数	卒業 者数	三年 卒業率	四大 進学者数 (現役)	四大 進学率	部活 三年 継続 者数	三年 継続率	生徒会 役員	役員率
			後期									
合 計	17,080	16,739	前期	5,376	5,096	94.8%	1,744	34.2%	3,633	71.3%	1,206	23.7%
			後期	11,133 (230)	10,425	91.7%	4,399	42.2%	6,913	66.3%	1,572	15.1%

※ 公立高校 90 校のうち、平成 17 年度入学者選抜で前期選抜を実施しなかった高校「諏訪二葉、下諏訪向陽、伊那弥生ヶ丘、松本筑摩」以上の学校のデータは除いてある。

### ○ 平成 18 年度入学者追跡調査

#### ☆ 全日制全体（平成18年度前期選抜実施校・公立90校全校）

	募集 定員	入学 者数	前期	入学者数 ( )は再募、後期外数	卒業 者数	三年 卒業率	四大 進学者数 (現役)	四大 進学率	部活 三年 継続 者数	三年 継続率	生徒会 役員	役員率
			後期									
合 計	17,400	16,992	前期	5,503	5,222	94.9%	1,817	34.8%	3,681	70.5%	1,364	26.1%
			後期	11,230 (259)	10,501	91.4%	4,430	42.2%	7,368	70.2%	1,591	15.2%

※ 平成 18 年度入学者選抜から、公立高校全日制 90 校全校で前期選抜を実施している。

# 県立高等学校入学者選抜制度について

(平成 21 年 9 月 10 日)

## 前期選抜改革の主な論点

### ○ 前期選抜の実施について

- ・前期選抜入学者は学校生活への意欲や目的意識が高く、学校の活性化につながっていると多くの高校が評価している。
- ・前期選抜の継続自体は中高の校長先生方へのアンケートで最も多く支持されている。
- ・学校ごとに前期選抜の状況が異なる中で、制度としては全県統一という現在の枠組みを見直して、各校の裁量による実施を望む声が一定数ある。
- ・学校によっては、前期の不合格者のほとんどが後期も受検している、という状況が見られる。

### ○ 前期選抜の合否の判定基準が曖昧

- ・以前の選抜は、学力検査の評価に重点が置かれた画一的な面があったとの反省もあり、学力検査以外の多様な評価尺度により入学者を選抜することが前期選抜導入の重要な趣旨である。
- ・合否判定基準が曖昧であるという声を受け、募集の観点や評価方法の具体化及び明確化を進めてきている。

### ○ ある程度の数の不合格者を出さざるを得ない状況

- ・募集の観点を満たすことを条件に自由な出願を認めているため、第一志望の高校に挑戦する生徒が多い結果と考えられる。
- ・以前のような、不合格者を出さない推薦入試には限界があり、現在のような選抜制度が導入された経緯がある。
- ・前期選抜の趣旨の周知や中学校の適切な進路指導、募集の観点や評価方法の具体化及び明確化により、不合格者数は減少傾向にある。

### ○ 受検機会の複数化

- ・受検機会が複数あることで、行きたい学校へ挑戦できることや、受検の精神的重圧が緩和されている面もあり、受検生や保護者から評価されている。

### ○ 中学三年生の指導上の困難さ

- ・前期選抜後の中学校では、前期合格者と後期受検者が一つの教室で学習しており、困難な状況があるとの指摘があり、中学校と連携しながら、前期合格者には高校から課題を出すなどの対応をしている。

### ○ 選抜事務の負担増

- ・志願理由書など提出書類が多く、作成に多くの労力を要している。
- ・選抜業務が長期に渡り、中高の現場での負担感が大きい。

# 平成 23 年度県立高等学校入学者前期選抜の実施校について

(平成 22 年 3 月 18 日)

## 1 各高校での検討の指針 (平成 21 年 11 月 16 日、第 899 回教育委員会定例会において決定)

前期選抜導入の重要な趣旨は、学力検査以外の多様な評価の尺度により入学者を選抜することであり、その意義を十分に認めた上で、以下に示す「指摘されている主な課題」に留意し、各校で前期選抜の実施の有無について検討する。

### 【指摘されている主な課題】

- (1) 前期選抜における不合格者数の多さ
- (2) 前期選抜の不合格者のほとんどが後期選抜で再び同一の高校を受検
- (3) 合否判定基準の曖昧さあるいは合否判定への納得が得にくいとの指摘

## 2 検討結果

平成 23 年度入学者選抜における前期選抜の実施の有無

### (1) 全日制 (全 84 校)

	実施する	実施しない	学科によって異なる
県立高校数	56 校	16 校	12 校

- 全日制的すべての職業学科・特色学科で前期選抜を実施する。
- 全日制において前期選抜を実施しない 28 校の学科はすべて普通科である。

### (2) 多部制を含む定時制 (全 18 校)

	実施する	実施しない	学科によって異なる
県立高校数	10 校	8 校	0 校

## 3 中学校からの主な意見 (各地区で行われた中高の意見交換より)

- 前期選抜の趣旨は理解できるが、普通科における前期選抜の意義には疑問がある。
- 前期選抜の実施により、中学三年生の指導に困難な状況がある。
- 受検機会が複数あることは評価できる。
- 職業学科・特色学科や地域にある高校では、前期選抜の継続を望む。

## 4 今後の対応

平成 23 年度入学者選抜の実施内容について、受検者等に対して周知を徹底する。

# 長野県公立高等学校入学者選抜に関するアンケート（平成23～25年度） の集計結果について（概要）

## 1 入学者及びその保護者に対するアンケート結果

### (1) 成果

- ・不合格者が減る
- ・選抜基準が明確になり不公平感がなくなる
- ・後期選抜に向けて学習や授業に集中できる
- ・前期選抜に向けた準備、練習ができてうまく自分を表現することができた
- ・前期選抜を実施しない学校の選抜方法についてはこのままで良い
- ・前期選抜志願者もそうでない者も、募集の観点に当てはまるかどうかを重視するようになった

### (2) 課題

- ・受検のチャンスが減り、不合格を恐れ自由な志願がしにくくなる
- ・私立との併願が増えた
- ・学力以外の実績や意欲を評価してもらう機会が少なくなる
- ・受検したいと思った高校が前期選抜を実施しなかったため志願しなかった
- ・募集の観点などは、さらにわかりやすく、具体的にできるようにしてほしい
- ・面接の実施方法をもっと改善してほしい

## 2 中学校郡市校長会長に対するアンケート

### (1) 成果

- ・進路指導上の負担が軽減された（多数の不合格者への対応減少、面接や志願理由書の指導減少）
- ・生徒の進路に対する意識が向上し、目的意識を持って前期選抜に臨めた
- ・後期選抜受検の生徒が増えて学習に取り組む姿勢が向上した

### (2) 課題

- ・制度が変わったため志望校決定など新たな進路指導上の負担が増えた
- ・進路指導の負担はさほど変わっていない
- ・前期選抜の継続を望んだ生徒がいた
- ・私立高校との併願が増えた
- ・進路を早く決めたいため第1志望でない学校を志望する生徒が見られた
- ・募集の観点や合否基準の明確化、志願理由書の様式の統一などを改善して欲しい

## 3 公立高等学校長に対するアンケート

- ・安全志向や早い段階で進学先を決めたいという心理がはたらき、前期選抜を実施する公立高校や私立高校に進学するという傾向がみられた
- ・前期選抜を実施した学校においても、他地区や私立高校への進学が増えたため、志願者数が減少する学校が見られた
- ・当面は現状維持が望ましいが、制度の研究も行っていくべきである

【P21～23の資料】

※ 著作権の関係で公開用の本資料には掲載できません。

写

28初児生第34号

平成29年3月29日

各都道府県教育委員会学校教育主管課長

(以下省略)

殿

文部科学省初等中等教育局児童生徒課長

坪田 知 広

公印

(印影印刷)

今後の高等学校入学者選抜におけるインフルエンザ罹患者等に対する追検査等の実施について（通知）

(以下省略)